

日本結核病学会北陸支部学会

—— 第93回総会演説抄録 ——

平成30年10月27・28日 於 福井県済生会病院（福井市）

（ 第82回日本呼吸器学会
第67回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催
第52回日本サルコイドーシス学会 ）

集会長 白 崎 浩 樹（福井県済生会病院内科）

—— 一 般 演 題 ——

1. 抗インターフェロン- γ 抗体が陽性で播種性MAC症が疑われた1例

宇野仁美（福井県済生会病臨床研修センター）鈴木淳也・村田亜香里・白崎浩樹・岡藤和博（同呼吸器内）澤崎愛子（同血液内）

症例は59歳男性。左肩痛を主訴に来院した。身体診察にて左肩甲骨の腫瘍と右鼠径部リンパ節腫脹を認めた。単純CT検査と胸部MRI検査にて左肩甲骨下端付近の溶骨性変化と背側筋内に腫瘍を認め、左肩甲骨腫瘍生検目的に入院となった。手術検体の培養にて*M. avium*が検出された。後日、抗IFN γ 抗体が陽性と判明し、播種性MAC症と考えられた。化学療法開始した1カ月後には左肩甲骨腫瘍と右鼠径部リンパ節腫脹は改善した。

2. 中葉結核の1例

岡崎彰仁・松田康彦・武田仁浩・藤田健太郎・芝 靖貴（厚生連高岡病呼吸器内）岩佐桂一・柴田和彦（同腫瘍内）

79歳男性、日系ブラジル人。X年4月右腎癌手術時に右中葉の多発粒状・結節影を指摘されMAC症疑いにて当科紹介。喀痰・胃液培養陰性、T-SPOT陽性、MAC抗体陰性。経過観察中陰影の増悪あり、同年9月気管支鏡を施行。中葉気管支を含め内腔特記なく右B⁵からのBAL液で結核菌陽性となった。中葉結核の報告は中葉症候群をきたした気管支結核がほとんどで、中葉のみに限局した肺結核の症例は少なく、若干の考察を加え報告する。

3. 結核治療中に肝障害を発症した2例

西堀武明（長岡赤十字病感染症）関谷友樹・鈴木 遼・古塩 純・

高岡雄一・石田 晃・佐藤和弘（同呼吸器内）吉川成一（同消化器内）小浦方啓代（済生会三条病呼吸器内）
症例1：80歳代、女性。抗結核薬治療開始後に食欲不振が出現した。腹部CTで高度の脂肪肝がみられた。抗結核薬の休薬で肝機能も正常化して脂肪肝も改善した。経過からRFPによる脂肪肝と考えられた。症例2：60歳代、男性。アルコール多飲者。潜在性結核感染症でINHの内服治療を開始した。全身倦怠感、食欲不振が出現し肝機能障害を認めた。肝生検では急性肝炎の所見であった。INH休薬、安静で改善した。

4. 肺 *Mycobacterium shinjukuense* 感染症の1例

徳井宏太郎・平井孝弘・平井孝弘・田中宏明・下川一生・高 千紘・岡澤成祐・神原健太・今西信悟・山田 徹・三輪敏郎・松井祥子・猪又峰彦・戸邊一之（富山大附属病第一内）林 龍二（同臨床腫瘍）
70歳女性。高脂血症、慢性蕁麻疹のため通院中であった。X-3年より中葉・舌区中心の粒状影や気管支拡張を指摘され、肺MAC症が疑われた。緩徐に悪化し、X年に気管支鏡検査が行われた。気管支洗浄液の抗酸菌塗抹陽性、*M. tuberculosis*, *M. avium*, *M. intracellulare*のPCR陰性であった。培養陽性となり質量分析法で*M. shinjukuense*と判明した。CAM, RFP, EB投与1週間で肝障害、薬剤熱が生じて休薬中である。16sRNA, *hsp65*, *rpoB*などの遺伝子シーケンスで診断された症例が近年報告されている。

